編 集 後 記

寺田寅彦記念館友の会　編集部

寺田寅彦の随筆「藤の実」の掲載について

今回、山田功様から藤の実のはじけることについて投稿をいただきました。そこで、寺田寅彦が「藤の実」をどのように見ているかを読んでいただいた後、山田様の「藤の実はいつはぜるか」を読んでいただいたらと考えて掲載しました。

関直彦様の「寺田寅彦なら・・・」の掲載について

このたび、関直彦様から、「京都漱石の會会報『虞美人草第14号』（編集丹治伊津子代表）」を寄贈していただきました。その中に、関直彦様が書かれた原稿があり、寺田寅彦を知るうえで大いに参考となるものであると考えまして掲載させていただくこととしました。

関直彦様は、丸山瑛一（理化学研究所名誉研究員）様の論文「科学論文化の真偽」について「寺田寅彦の立場なら如何になるか」という依頼に基づいて書かれました。

丸山様の書き出しを紹介しておきます。

「理化学研究所の小保方論文の「捏造」疑惑を契機として論文不正問題がマスコミを巻き込んだ大きな話題となっています。

このＳＴＡＰ細胞事件は2014年１月、理研の大々的な新聞発表に始まりましたがその直後から主要論文に画像の取り違えや切り貼りが見つかり、調査委員会から捏造との厳しい判断が下されました。そもそも科学論文の内容が真であるか偽であるかの判断は必ずしも容易なことではなく、関連科学者の長年にわたる検証を経て初めて確定するものであるはずなのに、これまでの議論は論文の内容についてよりも、もっぱら手続きの適・不適についてであることに、科学者の末席に連なる筆者は少なからず違和感を覚えます。（後略）」

山田功様の「藤の実はいつはぜるか」と四宮義正様の「寅彦本・装幀違いの楽しみ」の掲載について

この２点とも、本年度早々に投稿をいただいておりましたが、この時期になりましたことをお詫び申し上げます。

中谷宇吉郎雪の科学館開館20周年記念式典について

寺田寅彦記念館友の会の掲示板でもお知らせいたしましたが、石川県加賀市にあります中谷宇吉郎雪の科学館が開館をして20年目を迎え、その式典が11月1日に開催されるということで、寺田寅彦記念館友の会の代表として参加をしてまいりました。その様子をお伝えさせていただきます。

高知減災エンス塾の報告について

減災科学研究会が独立行政法人海洋研究開発機構地震津波海域観測研究開発センターの主催で、11月3日寺田寅彦記念館に於いて「寺田寅彦先生の地球科学観に学ぶ―減災科学研究の推進―」と題して開催されました。会の中で寺田寅彦が取り上げられたようですので、その内容を伊東様に報告していただくこととしました。